

発行者： 社団法人宮陵会（ 神奈川県大学校友会 ）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

## 初めての新年会を横須賀市内で開催

～ 予想以上の参加により盛会だった新年会 ～



新年会参加者全員で記念撮影

挨拶後、支部会員から四氏に対し激励の拍手・声援が寄せられおおいに盛り上がりました。

齊藤、桐生、杉野の三氏が退席後、中村進先輩（昭和25年貿易、葉山町在住）による乾杯の音頭で懇親会が始まりました。当初の計画では、隣の席に座る方を紹介する「他人紹介」を行う予定でありましたが、時間が無いため急遽中止としました。

初めて参加された方々も次第に打ち解け、学生時代の思い出、仕事のことなどは尽きませんでした。その間、ゲームを行いました。瞬く間に予定の2時間が経過し、小池副支部長（昭和38年機械）の中締めの挨拶が行われ、最後に特別参加の手塚正氏（昭和60年英語英文、宮陵会体育振興委員長）の音頭で校歌を全員で大合唱し、「エール交換」で新年会は幕を閉じました。

〔 齊藤つよし氏、杉野正氏のホームページから抜粋 〕

### ○ つよしの日記・・・2007年1月20日

自治労横浜給食支部新年の集いが横浜市内のホテルで開催され、祝辞を述べる。

神奈川大学の卒業生による会、宮陵会の三浦半島支部（古川勝彦支部長）に招かれ祝辞を述べる。昨年結成されたばかりだが、レクレーションをはじめ様々な活動を積極的に行われている。地域内には、約5000名の卒業生がいられるそうだ。

今日の会で、今夏のことについても決意を述べたところ、暖かい激励をいただく。

### ○ 杉野正オフィシャルウェブサイト：コラム 2007. 01. 20

出身大学のOB会の集まりに参加させていただきました。大先輩に、私の思いを素直に（素直になれるのが、嬉しい）伝えました。先輩達は、真剣に、耳を傾けていただきました。そして激励の言葉をいただきました。

なによりも、嬉しかったです。大きな組織も、大

1月20日（土）午後6時より横須賀市若松町の「鳥の巣」で三浦半島支部発足後初めての新年会を開催しました。新年会当日は、小雨が降る肌寒い日でありましたが、昭和25年から平成16年卒業生まで31名（他に来賓3名）の方々が出席されました。

昨年6月に母校神奈川大学で設立総会を開催してから7か月、総会には参加出来なかった会員も多数出席され、定刻の午後6時に砂川副支部長（昭和44年経済）の司会で新年会はスタートいたしました。古川支部長（昭和40年経済）より新年の挨拶があり、その後7月の参議院比例区公認予定候補者の齊藤つよし氏（昭和44年第二部法律）、横浜市港南区選出の県会議員桐生秀昭氏（昭和49年法律）、4月の神奈川知事選挙の立候補予定者杉野正氏（昭和57年貿易）、4月の横須賀市議会議員選挙で五選を目指す支部会員嶋田晃氏（昭和47年第二部経済）ら神奈川大学卒業生四氏が司会者から紹介され、それぞれ力強い決意表明がされました。

きな支援者もいません。けど、先輩がいる！これが、私のこころの支えです。大学の先輩！高校の先輩！これが私の「宝」です。

### 斉藤つよし・杉野正・嶋田晃三氏のプロフィール

#### 1. 斉藤 つよし氏

昭和20年横浜市生まれ。幼くして父と死別、母子家庭で育つ。中学卒業後横浜市役所に就職。働きながら横浜市立横浜商業高校（Y校）、神奈川大学第二法学部法律学科に通い、昭和44年神奈川大学を卒業。昭和60年横浜市役所を退職。昭和62年横浜市議会議員当選。平成3年再選。平成7年参議院（神奈川選挙区）初当選。平成13年再選。民主党総務局長等歴任。平成17年衆議院選挙で小泉総理（当時）に挑戦惜敗。平成18年民主党参議院比例区第19総支部支部長に就任。

#### 2. 杉野 正氏

昭和33年川崎市生まれ。昭和57年神奈川大学経済学部貿易学科卒業。同年、株式会社ユニチャーム入社。フィリピン・シンガポール・マレーシア・中東地域を担当。平成3年サウジアラビアに出向。平成8年株式会社エイチ・アイ・エス入社。関東営業本部長等歴任。平成14年田中康夫長野県知事から招かれ、しなの鉄道株式会社代表取締役社長就任。経営再建を果たす。平成16年上田清司埼玉県知事からの要請で埼玉高速鉄道株式会社代表取締役社長に就任。黒字化のめどをつけ、平成18年同社代表取締役社長を退任。

#### 3. 嶋田 晃氏

昭和23年横須賀市生まれ。昭和47年神奈川大学第二経済学部経済学科卒業。平成3年横須賀市議会議員初当選（現在4期）。教育経済常任委員長等を歴任。現在、公明党横須賀総支部長。同党横須賀市議団団長。

## 第83回箱根駅伝総合17位で惨敗

～復路10区で屈辱の繰上げスタート～

2区豊田崇、5区森脇佑紀、6区川南友佑は前回と同じ。7区に中山慎二郎を置き、5～7区の中盤に4本柱のうち3人を手厚く固め、2年ぶりのシード奪還に挑んだ。

1年生の森本卓司が小差の12位でスタート。豊田が激しい流れを上手いペース配分で乗り切り、戸塚中継所では9位につけた。力の落ちる3区で17位に下ると、以降は17～18位から浮上することはなかった。

5区に控えるエース・森脇が17位から1つも順位を上げられず、区間16位と大苦戦。上りでパタリと脚が動かなくなった。最後の仕上げとなるポイント練習はむしろ調子が良く、大後栄治監督は「どうして悪かったのかわからない。走れない森脇を初めてみました」と首をひねる。3区の下降は折り込み済みだったが、5区で浮上できなかったことは大きな誤算だった。

復路も6区川南がいきなり区間20位とつまずき、7区中山こそ区間5位と踏ん張ったものの、8区以降は区間18、16、17位。鶴見中継所ではわずか26秒届かず、繰上げスタートの屈辱を味わった。中継所の側道に到達しながら、目前で繰り上げピストルを聞いた9区森津翔太は、涙ながらに「ごめん」を繰り返した。

(注)この記事は月刊陸上競技2月号から引用しました。



1月3日復路9区JR保土ヶ谷駅前で応援

## 予選会へ向けて駅伝チームの再生を！

沿道でのご声援ありがとうございました。

昨年10月に昭和記念公園で開かれた箱根駅伝予選会に三浦半島支部有志4名は西多摩支部の皆様と合流し、現地で応援をいたしました。結果が発表させるまでハラハラ・ドキドキでしたが、4年生が意地をみせてくれた結果、本大会に出場することができ感謝しております。

しかしながら3年生・2年生は今一つ元気がなく、今年の予選会には一抹の不安を感じております。一度滑り落ちるとなかなか立ち上がれないのが常です。過去の常連校であった東農大がその代表例ではないかと思えます。

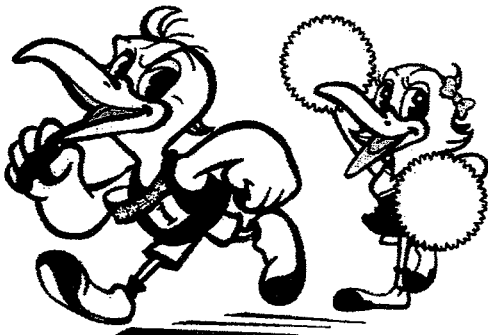
三浦半島支部では、多くの会員の皆様のご協力により初めて沿道で応援いたしました。2日の往路には8名の参加により保土ヶ谷駅前、大磯駅前で、3日の復路には15名ほど参加いただき、他支部および大学関係者の皆様と一緒に保土ヶ谷駅前、大手町で応援を行いました。全国の卒業生が注目する箱根駅伝。指導者、選手の皆さんまずは予選会突破を目指してください。

指揮官の大後監督、市川コーチは今回の結果を総括し、駅伝チームの再生プラン(選手の強化・育成策等)を神大エキサイトを通じ、全国の神大駅伝ファンに発信していただきたいと思えます。是非実行してください。

私達卒業生は、これからも微力ながら神大駅伝チームを応援していきます。

なお本年4月入部者および4年生の進路先が月刊陸上競技2月号で発表されました。同封しました「神奈川大学新聞情報」をご覧ください。

( 箱根駅伝応援隊 鈴木 )



大手町での神奈川大学応援団

## 役員会開催状況の報告

## 〔 第3回役員会 〕

開催日時 平成18年12月16日(土) 12時

場所 三浦市城ヶ島「城ヶ島京急ホテル」

参加人員 12名

## 議 題

- (1) 支部新年会の開催について
- (2) 第1回鎌倉天園コースハイキングについて
- (3) 第83回箱根駅伝応援について
- (4) 平成18年収支決算中間報告について
- (5) 人事新報社「神大総合名鑑」調査カードについて
- (6) 次回役員会の開催場所および議題について
- (7) 各種選挙立候補予定者への対応について

## ( 報告事項 )

1. 支部新年会は1月20日(土)午後6時から鳥の楽横須賀店で開催することを決定。
2. ハイキングは2月24日(土)実施することで原案通り決定。
3. 箱根駅伝応援案内を全会員に通知する。
4. 収支決算中間報告は了承された。
5. 調査カードは悪用される恐れがあるので全会員に注意を呼びかけることを確認。
6. 3月15日(木)逗子市内で開催する。
7. 斉藤つよし氏、杉野正氏を新年会に招待することが決定された。

## 支部同好会通信

### 「歩こう会」ハイキングのお知らせ

～2月24日(土) 鎌倉・天園コース～



天園コースは鎌倉でも人気のスポット

宮陵会三浦半島支部 歩こう会(世話人 篠田拓郎氏・小池邦夫氏)主催により、来る2月24日(土)第1回鎌倉・天園コースを巡るハイキングを実施いたします。今回のハイキングは、支部会員のみならず、地域外の神大卒業生・一般市民の方の参加も大歓迎です。

参加希望者は、当日午前10時までにJR鎌倉駅東口・郵便ポスト前(Kuマーク小旗が目印)にご集合ください。

なお前日午後6時50分のNHKの天気予報で降水確率30%以上の場合は中止といたします。昼食の弁当、飲み物は各自持参してください。このハイキングにつきましては、神奈川大学ホームページ内の「宮陵会のお知らせ」にも掲載していただきました。(鎌倉駅～鎌倉宮間バス代190円、拝観料300円は各自負担。)

ご家族、お知り合いの方々をお誘いのうえご参加くださいますようお願い申し上げます。

< 連絡先 > 小池氏  
 自宅 046-875-5079  
 メール kichiemu@mbj.nifty.com

### 第2回オープンコンペの開催について

～3月9日(金) 葉山国際カントリー倶楽部～

宮陵会三浦半島支部ゴルフ会(世話人 中川六郎氏)では第2回オープンコンペの参加者を募集しております。今回は限定3組です。参加希望者は、世話人中川氏までご連絡下さい。(申込み先着順とします。)なお現在8名の方々から申込みをいただいております。

神大卒業生であれば、地域を問わずどなたでも参加できます。

#### 記

- 開催日時 3月9日(金) 8時30分集合  
クラブバス 逗子駅発8時10分
- 場 所 葉山国際カントリー倶楽部  
電話 046-878-8111
- スタート エメラルドコース  
アウト9時22分から
- プレイ費 セルフ14,120円(食事別)  
横須賀・三浦市民は13,070円
- 参加費 1,000円(賞品代)

連絡先: 中川氏 携帯 090-9003-2499  
 自宅 046-875-4360

メール nakaroku@jcom.home.ne  
 〒240-0111 葉山町一色1087

### 第1回オープンコンペをエンゼルCCで開催

第1回オープンコンペが、12月7日(木)千葉のエンゼルカントリークラブで行われました。心配された天気も晴れのち曇りでますますであった。3組11人のうち10人が久里浜港に集合、手塚氏は東京経由で参加した。横須賀の三上先輩、鎌倉の石井氏、横浜の木村氏、佐藤氏そして手塚氏が初めてゴルフ会に参加された。

競技は新ペリア方式で行われ、前半41で回った木村氏がバックナインも45で上がり、ネット73(グロス86)で優勝しました。木村氏はドラコン、ニアピンも取り、準優勝には佐藤氏がネット77(グロス111)で続いた。3位には武笠氏がネット78(グロス108)ではいった。

残るドラコンは石井氏、ニアピンは鈴木氏がしっかりおさえた。



谷にあり池あり、フェアウェイ、グリーンも畝って最後までトリッキーなコースで力を発揮しきれないメンバーもいたようです。

今回、往復が船旅のためゆっくり話し合う時間も持たなかったので、情報交換や親睦を深めることができたのではないかと考えています。

宮陵会は、卒業年次も学部も違う方々が一緒に活動するわけです。まずは遊びでも趣味でも飲み会でも共有できる時間を作ることが大事だと考えています。その意味でゴルフは、年齢や経験が違っていても、楽しくプレイできることはいまでもありません。

ゴルフ会には、神大出身でゴルフを楽しまれている方は、域外の方でもどなたでも気軽に参加いただけます。年に3~4回程度実施いたしますので、ご参加をお待ち申し上げます。(世話人 中川 三郎)

## 会員からの短信



今回も会員の皆様から多数の原稿をお送りいただきありがとうございます。学生時代の思い出、趣味、旅行記、仕事のこと等テーマは自由です。次号以降も掲載しますのでよろしくお願ひいたします。(字数は1,600字以内)

(送付先)

〒239-0835

横須賀市佐原3-21-33 鈴木 稔

メール ne2tf6@bma.biglobe.ne.jp

## 我が母校の思い出

篠田 拓郎

私の神奈川大学への入学は、昭和27年4月で当時の大学校舎は、前身の横浜専門学校からの校舎が殆どで、木造校舎とモルタル壁の本館、木造の講堂があり、宮面ヶ丘の運動場があるだけで、現在とは比べようがない。

過日、同窓の有志を誘って母校を訪ねたとき、大学を出て以来の同期は、横浜キャンパスの変貌に目を瞠<sup>みは</sup>っていた。

西の高台にあった木造の寮から下駄履きで通学もした。夏には丸首シャツ1枚だった。多くの学生は仕送りが少なく、アルバイトをして大学への出席は余り出来ない人もいた。

米軍のキャンプへ通訳、港へ沖仲仕やカンカン虫(船の塗装)をやった者もいる。私が寮への入居が出来たのは、郷里の岐阜出身である梶原太郎先輩の世話であった。古い建物の部屋は、床下から伸びた草が畳の縁を抜けて芽を出していたのにはびっくりした。

未だ戦後の復興も進んでなくて、横浜市内はアメリカ兵が多く見られ、山下町地域は有刺鉄線に囲まれたところが、<sup>まがねちよう</sup>あちこちありMPが銃を片手に警備をしていた。また真金町や浦舟町あたりは、赤線地区もあって近づく「お兄さん、ちょっと」と声をかけられた。夜に歩くにはおっかない街だった。

食糧も配給時代で、米穀通帳で発行された食券で食堂へ喰べに行った。現在、当時の食堂はどれも残ってないが、大和食堂は経営者が変わって、つい最近まであった。東白楽に近いハラヤ食堂は、大きくて利用者も多かったのが懐かしい。大和食堂は学校下から六角橋交差点へ向かう路地沿いであって、下宿から近くテレビを見によく通った。プロレスの力道山の全盛時代で画面に写る空手チョップに拍手したりした。

東横線の白楽駅前に白鳥座があり、白い建物が目立ちフランス映画が多く上演され、3本建てで1日中見られた。白楽駅からの大通りには途中から、もう1本の商店街の路地があり、今も残っている懐かしい通りである。

学生寮は、地方の方言が飛び交い九州や北海道の学生が多かった。1年住んで先輩を頼って梶原さんと同居した。大学から3分程の青山宅の応接間は、隣に3階建て

の木造家屋があり、部屋は薄暗かったがよく先輩達が来て溜り場だった。勉強どころでなかったが、教えられることも多く、社会に出てから多に役立った。今では大変に感謝している。

秋の文化祭には、梶原先輩の音頭で仮装行列を2年続けてやった。伊勢佐木町までよく歩いたものである。プラカードなど看板文字は梶原さん、絵は私が担当した。吉田茂首相の似顔で張り子の頭を作ったのが思い出である。衣装は、同期の川瀬元夫君の親類の方が松竹大船撮影所におられ、陸・海軍の将校や兵の服装、警察官の服装をお借りした。参加者が、それぞれ各自で扮装を工夫したり、小道具を調達し崎陽軒のシュウマイ娘の服を借りたりした。漫画の冒険ダン吉のクロンボの姿、全身を黒く塗り背中に白く番号を入れた面々、様々の仮装は面白かった。梶原さんも今は故人である。



秋の文化祭・仮装行列風景

大学でのクラブ活動は、ラテン・アメリカ研究会（<sup>ら</sup>羅米会）と貿易研究会に入り、同窓の川瀬君や紅一点の木全（北条）さん、先輩の小嶋、根本さんと出逢い今も交流が続いている。スペイン語の渡部先生を囲んでの会は、先生のお元気な間永く続いた。現在、母校の立派な校舎と公園のような校内の雰囲気、我が在学時代とは隔世の感がある。

今回、三浦半島支部の設立を古川支部長、鈴木さん等役員で出来て、鎌倉地区幹事として少しでも発展に寄与出来れば幸いである。歩く会の企画は賛成で、楽しみにしている。天園コースは、山登りをしている私にとって、トレーニングの場でもあり、参加される皆さんを案内したいと思っている。沢山の参加を期待している。

(昭和31年法経学部貿易学科卒業)

徳富蘆花「自然と人生」返子・葉山界限

小池 邦夫



徳富蘆花（とくとみろか）  
1868~1927

明治・大正期の小説家。肥後生まれ。徳富蘇峰の弟。同志社入学後、キリスト教受洗、のち中退。民友社で翻訳などに従事。1900年不如帰を発表。黒潮で政界を批判。兄の蘇峰とも決別。

小説「不如帰」で名を成した徳富蘆花は、約100年前の明治30年代にしばらく現在の神奈川県逗子市南端、田越川河口近くに閑居していた。そのとき近辺の風光風物を、その著「自然と人生」の一部に日記風に記しています。

「此頃の富士の曙」と題して、明治31年1月午前6時過ぎから刻々と変わる富士の姿と色を美文調で描写しています。

1月1日「桜山に登りて富士を望む」として、椿が3、40輪咲いていると書いています。この辺りには今でも数椿がかなり分布しています。その上には最近4世紀末の前方後円墳が2基発見されましたが、もちろん彼は知る由もなかったことです。

1月4日「相模灘の水蒸気」として厳冬の早朝河口から海へ流れ出る水蒸気につき、晴れて富士が顔を出すまでを描写していますが、この現象は温暖化が進んだこの頃は滅多に見られません。

1月16日、薄氷の川を遊って川藻を麦作の農家に売る船の光景が描かれています。戦後間もなくまで貴重な肥料だったようです。

1月20日には、伊豆の山火（山焼き）を遠望しています。

2月4日、立春に「鏡摺の鼻の岩礁と鳴鶴が鼻の岩礁

が黒く海中に延きたり」とありますが、この岩礁は埋め立てられて見るよすがもありません。初春の雨の日、富士見橋のほとりに「米かし桶より乳のごと滴々・・・」と当時は河口近くでも川で米を磨いていたようです。

3月25日、伊勢参宮「馬の鈴音ちゃらちゃらと・・・囃し立て、停車場の方へ行くなり」旅立ちの様子です。我が家にも丹前を大きくしたような裾に大漁模様のある綿入れの伊勢参りの衣装が残り、子供用の夜具代わりに使われていました。

4月2日平磐（ひらいわ）に「磯の潮干」魚、貝、海藻の名前が多数出てきますが、この平磐は浪子不動前をさらに鎌倉方面に寄った披露山の裾の平らな岩礁と推察されます。

「章魚突く男は、水澄ます油入れたる竹筒片手に・・・」油を水面に垂らして表面張力で小波を消して、章魚の住みかがよく見えるようにするとか、つい最近まで町内の章魚捕りの名人も使っていました。

9月23日、秋分「近在の老若男女藤沢に鎌倉に寺参りして帰る者、織るがごとし」藤沢は遊行寺、鎌倉の寺は光明寺でしょう。

10月3日、鰯釣りをしながら「葉山から逗子の停車場に通ふがた馬車のラッパ」の音が聞こへる」とあります。

11月27日時雨の日「忙しう世の思はるゝ時雨かな」と古人の句を挙げています。

12月31日、歳除「吾宿にも、山より松を伐り来りて、立てぬ。前川に泊する舟の上にも、松あり、注連縄あり」昨今は他人の山に無断で入って門松を用立てることはしなくなりましたが、舟の飾りは相変わらず律儀に行われています。

吟行かたがた岩波文庫版「自然と人生」を片手に季節と場所を実証してみるのも一興かと思えます。

(昭和38年工学部機械工学科卒業)

15年間の海外赴任を終って

塚田 尚

宮陵会三浦半島支部の皆様明けましておめでとうございませう。支部だよりの幹事さんから海外赴任の経験談をという要請があつて、僣越ながら筆を取らせていただき

ました。

1991年から2001年をマレーシアで、2001年から2006年をインドで都合15年間を海外で過ごし、昨年9月に日本に戻りました。この春66歳を迎えますが現在アドバイザーとして後任のサポートをしています。

私は、ミニチュアペーパーリングの製造会社に勤務しています。会社は1991年にマレーシアに製造拠点を設けることを企画し、私に責任者として任命されました。

1. マレーシアに進出の考え方。

- 1 ; 将来客先のマレーシア進出が予測できるので、それに備えて現地生産、供給を行う。
- 2 ; 経費の安い国での生産でコストの削減を実現する。
- 3 ; 作業者の確保が容易。
- 4 ; 現地企業との合弁会社（ローカル資本20%）でスタートする。

2. 現地の責任者である私への社長指示

- 1 ; 社長は現地の資本家をあてるので君は役員として働いてもらう。

この点は日本資本80%なのに何故？という強い疑問のまま赴任した。

- 2 ; マレーシアの国に世話になるつもりで3年間頑張ってきてくれ。

変わった言い方だとやや驚いた。

- 3 ; 現地で女性問題を起こしたら首とする。

当然であると理解した。

- 4 ; 会社が上手くいかなかったら、いつでもたんで帰ってきて良い。

非常に意味の深い表現と感じた。皆さんだったらどのように受け止められますか。

という条件で、当時英語が話せない私と期間限定の通訳と技術者の2人と共に赴任をしました。

全てが始めての社会で通訳は3ヶ月で引き上げましたが、夢中で過ごし1年が経過してようやく日本の社長が何故現地の資本家を社長に任命したかが理解できた。

マレーシアそしてインドに進出したマジョリティーを持った全ての会社は、当然のように日本側が社長を派遣しています。弊社のような事例は全く聞くことがありませんでした。現地法人との付き合いのなかでよく耳にしたことは、役所とのコミュニケーションが上手く出来ず全てのことで認可をなかなか下ろしてもらえず困っているということでした。

しかし弊社では、社長が現地人であるため（私の想像ですが）その点の苦労は少なかったということ、弊社

のトップマネジメントの方針が理解出来るような気持ちになりました。そしてジョイントの相手が我々の仕事とは関係の無い業界であったため、実際の仕事には全く口を出さず、もっぱら役所との仕事、人集め、その他現地の人でなければ難しい役目に徹してくれたことで非常に仕事が上手く進みました。

海外に初めて進出する会社のトップが、なぜこのような経営を進めることを考えついたのが、今でも不思議な気持ちであります。

スタート時は10人の会社でしたが、6年後ようやく100%日本資本になり、10年後私の帰国時は3つの会社で1,500人規模に成長し、今ではグループの中心をなす規模になっています。成功の秘訣は、当初現地の資本家を社長とし、その地域に世話になるという会社の精神が、その国の仕事に関係する人達の心を捉え協力を繋がり成功していったと理解出来るようになりました。

当時関係する銀行、jetoroの方々からは、他に例のない不思議な会社ですねとよく言われました。私は3年間の現地勤務という約束でスタートしましたが、結局10年間をマレーシアで過ごすことになってしまいました。その間日本から赴任する部下達はすべて3年周期で帰国していきました。なんとも複雑な思いでした。2001年定年を迎え、マレーシアを引き上げました。



マレーシアの軽井沢と称される「キャメロン・ハイランド」高原避暑地で、ホテルやゴルフ場も充実している

2001年にマレーシアから帰国すると、今度は子会社がインドに進出ということで現地の社長を任命されました。今回のケースは、100%日本資本ということで。そして今回は経営者から特に方針の指示はありませんでした。現地の1人を役員にしました。この役員を大事にし、やはりインドに世話になるという気持ちを念頭においてローカルの役員、雇用者とも付き合うようにしました。特に管理面は経営、生産、品質管理は日本式に

し、教育を中心にOJTで初歩から鍛えました。私の方針は機械の故障が起きたり、技術面で解らないことが起きても日本に助けを求めないということでスタートしました。

インドはマレーシアと違い、製造に関して全ての基本技術を持った国です。品質面では比べようが無いくらい低い国（決め付けて申し訳ありません）ですが物を作る国ですので、基本的な技術はあるはずと考え上記の方針を考えました。機械の故障が起きると原因追求から始まり、故障した部品の代替や修理方法を一緒に考えました。修理には、日本との比較でそれは時間は長くかかりました。しかし全てに対し起きてくる問題解決は、人に頼らず自分達で解決しなければならないという気持ちと実績が彼らを大きく育てたと言えます。ようやくローカルのスタッフが一人前（まだ半人前かもしれません）になったと思うようになるまで5年が経過していました。

そして私は65歳となり、日本の経営者に15年の海外生活からの別れを申し出て、ようやく私の任務が終わりました。

二つの海外の現地法人での勤務を経験し、一番大事なことは「会社も人もその国とその国で接する人達への謙虚な気持ちと思いやりを基本とし、信賞必罰の気持ちで彼らを教育し彼ら自身の力で会社が動いているということを実現させる」ということであると信念が持てるようになりました。

こうして過ごした海外の15年間は私の大事な宝物となりました。結びになりますが私の上司（社長）に感謝と尊敬の念を強く抱いております。

(昭和38年工学部機械工学科卒業)

宮陵会 三浦半島支部設立ばんざい!

若林 秀明

青春時代に迷い道に入り込み、何をやるかの目標もなくただただ一日一日と過ぎていく状態でありました。そのうちにこのような事をしていたはいけないとの思いが湧いて来て、目的を持つためにはどうすればよいかということを考え、次の手段としまして昭和35年第二法経学部へ入学し、今後の計画を立てることにしました。

その後、“ゼミ”を選択するカリキュラムでは、何



を専攻するかについて迷いましたが、「会計学」を学ぶことにしました。

会計学のゼミは当時二つの教室があり、一方の教授は就任間もない新進気鋭で学生には人気があり、昭和50年代には税理士試験委員にもなり相当有名でありました。もう一方の教授は、いかにも紳士らしい公認会計士で当時でも監査法人の役員をしていた安藤栄一教授でありました。

一般科目及び選択科目の関係で安藤栄一教授のゼミを受講することにしました。教授は敬虔なクリスチャンでもあり、教会のミサにも参加し、英語が達者であり、原書や英文の和訳検討などが得意な、好々爺のような感じでありました。熱心に指導されていましたが、ゼミ生なんと少なく3人で個人的にも親しくなりました。

また授業で使用する教科書は分厚いものを2冊持参する必要がありましたので、大きなカバンが必要になり、人数が少ないため私達は手抜きをすることもできず、教授は個人的な指導となり、大変な思いをしたことと推察し、今になっては感謝しております。

昭和39年卒業するときゼミの先輩が勤めている会社から求人があり、その会社(現ソマール株式会社 東京証券取引所市場第二部上場 業種は主に化学品、樹脂等の卸売業)へ入り、人生の分岐点となったタイミングは、今になっては運命的な出会いとしか思えません。現在もその関係会社であります株式会社宗屋(不動産管理業)に非常勤ではありますが勤務し、本年3月には退職する予定であります。

卒業後しばらくしてから、宮陵会に参加する機会があったので永久会員となりましたが、組織が大きくて参加する都度メンバーが変わっていたりして、行事に参加しようとする思いが湧いてこないこともあり、身近な存在とはいえない状況でありました。

昨年、三浦半島支部の発足という通知がありましたので、地域に密着していくような組織でもと考え、思い切って参加することにしました。発足時の総会に出席したときの雰囲気は思いがけずにも親近感を得、今後のことは微力ではありますが、この会の発展に寄与していく思いになりました。

これからは会の発展・行事への参加等にも注力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(昭和39年第二法経学部経済学科)

## 支部年会費納入状況

(平成19年1月31日現在)

[平成19年3月まで納入者]

(鎌倉)	小永井 潔	篠田 拓郎	川瀬 元夫
	岩崎 英昭	渡辺 静雄	山岸 一輔
	天利 裕行		
(逗子)	山本 厚	川瀬 行成	長沢 良成
	中島 龍彦	遠藤 誠	
(葉山)	中村 進	小池 邦夫	中川 六郎
	周藤 亜矢子		
(横須賀)	鈴木 昭利	島 久喜雄	沖 丞
	三上 和男	萩原 孝	角谷 彰
	石渡 敏夫	籠田 隆康	金野 義勝
	相原 充	鳥海 洋義	青山 隆一
	鈴木 伸夫	長島 保雄	二井 美恵子
	箕輪 義夫	岩崎 正利	早川 智子
	鈴木 康介	星野由希子	上野 讓
	鈴木 三郎	伊澤 隆雄	奥野 晶洋
(三浦)	片寄 孝男		

[平成20年3月まで納入者]

(横須賀) 上原 章道 塚田 尚

[平成22年3月まで納入者]

(鎌倉)	小澤 光	石井 和行	若林 秀明
	北野 紘一	古川 勝彦	飯田 秀男
(逗子)	岸本 光瑞	松本 育雄	千葉 毅一
(葉山)	岩澤 正之	石渡 俊一	
(横須賀)	山内 元式	森 茂	八嶋 政臣
	石井 一男	落 勝廣	菊池 武
	村田 龍也	結城 康雄	金井 昌孝
	熊澤 勝喜	寺脇 敏彦	早川 勝繁
	福島 康臣	砂川 正夫	森下 守久
	鈴木 稔	野村 晴男	田中 久夫
	嶋田 晃	塩塚 定雄	舟崎 学志
	内藤 正久	清水 英樹	星山 正範
	新藤 優	中山 廣男	長谷川征勝
	工藤 真也		
(三浦)	原 柳作	石渡 大湖	

(以上納入者84名)

### 年会費納入のお願いについて

年会費未納の方お振込をお願いいたします。  
 郵便振替受入口座 00290-5-95815  
 宮陵会三浦半島支部  
 横浜銀行口座 久里浜支店  
 普通預金 1747984  
 宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部  
 会費は年間3千円。4年前納は1万円です。

### 事務局からのお知らせ

#### 〔 支部会員になられた方のご紹介 〕

昨年6月に開催した設立総会后、次の方々が三浦半島支部の会員になりました。

( 敬称略 )

八島 政臣	昭和33年法律	横須賀市鴨居
中山 廣男	昭和36年貿易	横須賀市二葉
塚田 尚	昭和38年機械	横須賀市平作
石井 和行	昭和39年Ⅱ法律	鎌倉市手広
相原 充	昭和46年法律	横須賀市米が浜通
周藤 亜矢子	平成7年法律	葉山町一色

#### 〔 支部会員を退会された方のご紹介 〕

榊 雄造	昭和30年Ⅱ法律	横須賀市岩戸
平舘 秀雄	昭和39年電気	横須賀市浦賀丘
小松原 修	昭和53年経済	横須賀市東逸見
岩崎 正利	平成13年応用化 大学院	横須賀市米が浜通
天利 裕行	平成17年応用化	鎌倉市梶原

岩崎、天利両氏は、ご結婚のため住所が他地域に移られるために退会されました。現在支部会員は88名です。

#### 〔 受勲を受けられた会員のご紹介 〕

2006年春の受勲受賞者

黄綬褒章 (発明・開発により)

中山 廣男 殿 昭和36年法経学部貿易学科  
 受勲受賞誠にありがとうございます。



●箱根保養所  
 ◎所在地 〒250-0631 足利下郡箱根町大字仙石原1104-1  
 TEL: 0460-4-9611  
 ◎交通案内 ■バス利用の場合…小田原駅前/仙石経由湖尻行き  
 仙石下車徒歩10分■車利用の場合…◎横浜I.C.- (東名高速道路)-  
 御殿場I.C.- (国道138号線)-箱根保養所



●富士見高原研修所  
 ◎所在地 〒393-0055 長野県諏訪郡富士見町立沢字広原1-1194  
 TEL: 0266-66-2610  
 ◎交通案内 ■JR利用の場合…中央本線急行2時間40分◎新宿-  
 小淵沢駅(急行停車)→タクシー20分(3,500円程度)◎新宿-富士  
 見駅(急行停車)→タクシー15分(3,000円程度)富士見駅から研修  
 所までマイクロバスの手配ができます。詳細は次の番号にお問  
 合せ下さい。■諏訪バスTEL: 0266-72-7141■車利用の場合…  
 ◎横浜-東京(中央高速道)-小淵沢I.C.(料金所出てすぐ右)-八ヶ  
 岳周遊道路(原村方面※見岳橋、照明付の橋です渡ってすぐ右登)  
 ◎タクシー…小淵沢駅より約20分・富士見駅より約15分◎中央高  
 速道路利用…小淵沢I.C.より約20分

お気軽にご利用ください。……… 神奈川大学総務へ直接お問い合わせ下さい。  
**神奈川大学保養所ガイド**  
 ☎ 045-481-5661

#### ～ 編集後記 ～

当初予定は4月でしたが、2か月前倒しし、第2号を発行しました。今回は新年会、箱根駅伝を中心にまとめましたが、箱根の惨敗は残念でした。予選会に向け指導者・選手の奮起を期待しております。なお本紙に対するご意見等を事務局までお寄せ下さいますようお願い申し上げます。(S)